



エイボン女性文化センター

2009 年 10 月 28 日

2009 エイボン女性年度賞 受賞者決定

第 31 回エイボン女性大賞 村松静子さん

～ “開業ナース” として看護サービスのビジネスモデルを一から築き、在宅看護事業の道を切り拓いた～

回路設計用トランジスタ・モデルで半導体分野 “国内初” 国際標準を取得した三浦道子さん
女性賞は、日本の子どもの衝撃的な貧困率をデータにより世に知らせ警鐘を鳴らした阿部彩さん

エイボン女性文化センター（東京都新宿区／エイボン・プロダクツ株式会社が運営）は、2009 年 10 月 28 日、『2009 エイボン女性年度賞』の受賞者を下記のとおり、決定しました。

エイボン女性大賞	むらまつ せいこ 村松静子さん 在宅看護研究センターLLP(有限責任事業組合)代表、 日本在宅看護システム有限会社・看護コンサルタント株式会社代表取締役
エイボン女性賞	みうら みちこ 三浦道子さん 広島大学大学院教授、広島大学 HiSIM 研究センター長
エイボン女性賞	あべ あや 阿部彩さん 国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部第2室長

本賞は、その年度で顕著な活動をされた方、永年の地道な努力を結実された方、女性の新しい可能性を示唆する先駆的活動をしている方という観点から、厳正な審査の末決定しています。1979 年の創設以来、第 1 回女性大賞の市川房枝さんから昨年度までで総勢 156 名の方が受賞しました。

本年度で第 31 回を迎えた本賞に、今年もこの一年間でキーワードとなる事象に関連する分野で功績をあげられた 3 名の女性を選出されました。

※詳細は次頁をご参照ください。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

エイボン・プロダクツ株式会社 コミュニケーション部門 岩城 昌子 〒163-1430 東京都新宿区西新宿 3-20-2 Tel:03-5353-9391 Fax:03-5353-9056	2009 エイボン女性年度賞 広報事務局 共同PR株式会社 第四業務局 横山／高橋 Tel:03-3571-5238 Fax:03-3571-5380
--	--

2009 年のキーワード

2008 年に勃発した金融危機に端を発した世界的な経済不況が、収束する気配を見せないまま深刻化するに伴い、雇用環境も悪化の一途をたどっています。一家の働き手である親の雇用の問題が連日ニュースとして取り上げられ、その影響下で深刻化した子どもたちの貧困の問題が、一部の教育関係各所から叫ばれ、顕在化してきました。将来の日本社会を担う子どもたちの貧困問題への対応は急務といえます。

また、今年は、地球規模、グローバルで取り組む問題が切実にクローズアップされた年でもありました。オバマ米大統領が 2009 年 1 月、温室効果ガスの排出量削減と自動車の燃費向上に関する政策の見直しを指示し、世界は温室効果ガス削減に向けて大きく舵を切りました。これは苛烈な技術開発競争の幕開けでもあります。長引く経済不況を打開するための活路を求め、そして次の世界経済の覇者となるために、技術開発をめぐる熾烈な戦いが世界の舞台で繰り広げられています。

一方国内では、医師不足、看護師不足という大きな社会問題も解決されないまま現在にいたっています。2009 年 3 月には千葉県銚子市の市立総合病院の診療休止をめぐり、住民らが住民投票により市長をリコール。公立病院の深刻な経営難の問題と近隣で医療を受けたいという住民の切実な願いとの相反する現実が、大きなニュースとして取り上げられました。日本は世界で有数の経済大国と言われながら、地域で十分な医療を受けられない可能性がでてきているのです。

このような閉塞感の続く状況の中、今最も求められているのは、時代を切り拓くソリューションなのではないでしょうか。本年の受賞者の方々は、重大な問題を顕在化させ、そしてそれを克服し、将来の日本のために、今ある問題の解決に向けて尽力されている方々です。

エイボン女性大賞／村松静子さん

患者とその家族の助けを求める切実な声に気づき、日本赤十字社医療センターICU の初代看護師長というエリートの道を捨て、誰も行っていなかった在宅看護を事業として一から切り拓くことを決意。何もないところから育成プログラムを作り、提供・指導する教育事業はもちろんのこと、看護料金の換算化、コンサルティングまでを地道に続け、“開業ナース”事業のビジネスモデルを作り上げ、社会へ浸透させました。当初批判や摩擦のあった医師会や看護協会、厚生労働省(現)とも今は双方で提案や発言ができる関係に。“看護師にしかできない事業”を作り、そしてその事業を守るペースメーカーであり続けています。

エイボン女性賞／三浦道子さん

指導者として研究チームを牽引し、開発した回路設計用トランジスタ・モデルが半導体分野で日本初の国際標準を取得という快挙を成し遂げました。オリンピック招致並みに難しい国際標準化に挑み、熾烈な戦いをフェアに勝ち抜き獲得。それは、日本の技術力をグローバルに発信し、国内科学技術・産業界に誇りと活力を与えるものです。日本の技術がリーダーシップを取り戻し、産業界を活性化させ、エコにおいても日本がリーダーとなれることを目標に研究に邁進し続けています。

エイボン女性賞／阿部彩さん

格差社会の中で見過ごされていた日本の「子どもの貧困」という衝撃的な事実を、研究者としての自身の強みである緻密なデータ収集により浮き彫りに。自らを「貧困の研究者」と称し、「日本に貧困などない」という貧相な貧困観や「貧困なのは努力が足りない」という自己責任論を捨てて現実を知ってほしいと、実態を厳しく問題視し続けています。次世代へと受け継がれる貧困の連鎖を食い止めたいという思いで日本社会の片隅で貧困にあえぐ子ども達の状態を変えるため、社会に警鐘を鳴らしています。

エイボン女性年度賞とは

「エイボン女性年度賞」は、これからの時代を的確に捉え、社会のために有意義な活動をし、現代を生きる女性に夢と希望を与え、功績をあげている女性を表彰する賞です。1979 年に開始し、今年で第 31 回を迎えます。同賞は、エイボン・プロダクツ株式会社が、1979 年に女性の美しさおよび健康の向上や交流、社会的活動のサポートや促進を目標に設立した「エイボン女性文化センター」のプログラムです。

- 名称 「エイボン女性年度賞」
- 設立 1979 年
- 趣旨 これからの時代を的確に捉え、社会のために有意義な活動をし、現代を生きる女性に夢と希望を与え、功績をあげている女性を表彰する。
- 各賞内容 エイボン女性大賞 1 名
エイボン女性賞 2 名
- 特長
 - 1) 選考委員全てが女性であり、幅広い分野を対象に独創的な視点から審査を行っています。
 - 2) 女性の功労と社会的視点に焦点をあてた、女性のための賞です。
 - 3) 顕著な活躍や業績で広く知られた方ばかりでなく、目立たぬ分野で地道に努力を重ねてきた方、女性の新しい可能性を示唆する方の発掘にも力を入れています
- 受賞者数 第 1 回女性大賞の市川房枝さんから、昨年の第 30 回女性大賞の小林純子さんに至る 30 年間に 156 名の方が受賞されました
- 選考委員会 エイボン女性文化センターの 6 名の顧問委員で構成されています
 - ・井上 由美子(脚本家)
 - ・川本 裕子(早稲田大学大学院ファイナンス科教授)
 - ・橋本 ヒロ子(十文字学園女子大学社会情報学部教授)
 - ・大熊 由紀子(国際医療福祉大学大学院教授)
 - ・齋藤 光江(順天堂大学医学部乳腺内分泌外科准教授)
 - ・古田 典子(弁護士)
- 選考方法 候補者の選出は、オピニオンリーダーや公共機関・各種団体をはじめ、広く一般より推薦を募る一方、新聞・雑誌・放送などの情報を参考にしています。特にその年度で顕著な活躍をされた方、あるいは永年の地道な努力を結実された方、女性の新しい可能性を示唆する先駆的活動をしている方という観点から、情報・資料を収集・分析。これらをもとに、6 名の顧問委員による選考委員会を開き、厳正な審査を重ねた末、受賞者を決定しています
- 副賞 賞牌
賞金(エイボン女性大賞は 100 万円、女性賞は各 50 万円)
- 指名寄付団体 受賞者の活動分野の関係者および協力者の今後の発展を願い、受賞者本人への副賞とは別に、各賞の副賞と同額を受賞者が指名する団体に寄付しています

■受賞者プロフィール

エイボン女性大賞

むらまつせいこ

村松静子さん

在宅看護研究センターLLP（有限責任事業組合）代表
日本在宅看護システム有限会社・
看護コンサルタント株式会社 代表取締役

生年月日：1947 年

出身地： 秋田県



受賞理由

誰もが最も愛する自宅で最善の看護技術と手のぬくもりを受ける在宅ケアこそ、看護の本質。その信条の下、“開業ナース”として看護サービスのビジネスモデルを一から築き上げ、在宅看護事業の道を切り拓いた。

プロフィール

1947 年、秋田県生まれ。筑波大学大学院教育研究科修士課程カウンセリング専攻修了。日本赤十字社医療センターICU 初代看護師長を経て、83 年からボランティア訪問看護の活動を開始。86 年、在宅看護研究センター設立。92 年には日本在宅看護システム株式会社設立。在宅看護の活動を続けながら執筆やビデオ製作にも取り組み、開業ナース・臨床心理士として、その時代に合った看護を追求し続けている。著書に「看護の実力」「その時は家で 開業ナースがゆく」など。財団法人在宅医療助成勇美記念財団理事、日本訪問看護振興財団理事、学校法人日本赤十字学園評議員なども務める。

指名寄付団体

在宅看護研究センターLLP(有限責任事業組合)

■受賞者プロフィール

エイボン女性賞

みうらみちこ

三浦道子さん

広島大学大学院教授、
広島大学 HiSIM 研究センター長

生年月日：1949 年

出身地： 広島県



受賞理由

指導者として研究チームを牽引し、開発した回路設計用トランジスタ・モデルが半導体分野で記念すべき国内初の国際標準を取得。日本の技術力をグローバルに発信し、国内科学技術・産業界に誇りと活力を与えた。

プロフィール

1949 年、広島県生まれ。広島大学大学院理学研究科博士課程化学専攻修了。理学博士。81 年よりドイツ・マックスプランク固体物理学研究所研究員、84 年よりシーメンス社中央研究所半導体部門研究員として研究を行なう。96 年より広島大学教授、現在は大学院先端物質科学研究科教授、HiSIM 研究センター長を併任。産業界の支援のもと学生達と HiSIM の研究に打ち込み、07 年には高耐压モデルで国際標準を取得した。「文部科学省未来政策研究所ナイスステップな研究者（研究部門）」「科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）」「服部報公会 報公賞」などを受賞。

指名寄付団体

国立大学法人広島大学 HiSIM 研究センター

■受賞者プロフィール

エイボン女性賞

あべ あや
阿部 彩さん

国立社会保障・人口問題研究所
国際関係部第2室長



受賞理由

格差社会の中でも見過ごされてきた日本の子どもの衝撃的な貧困率。その実態を地道なデータ収集で社会問題として浮き彫りにし、次世代への負の連鎖の撲滅と子ども達の幸せを祈って警鐘を鳴らし続けている。

プロフィール

マサチューセッツ工科大学卒業。タフツ大学フレッチャーズ法律外交大学院博士。Digital Equipment Corporation にてソフトウェア・エンジニアとして働いたのち、国際連合（インド勤務）、海外経済協力基金（現 JICA）勤務を経て、99 年より現職。専門は社会政策、貧困研究、社会保障。日本へ帰国後は途上国支援の仕事の傍ら、野宿者支援団体で活動。98 年、新宿西口地下道のダンボールハウス撤去騒動に衝撃を受け、日本の貧困研究をするために転職。「子どもの貧困」「生活保護の経済分析」「子育て世帯の社会保障」など著書多数。「生活保護の経済分析」により第 51 回日経・経済図書文化賞を受賞。

指名寄付団体

NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ